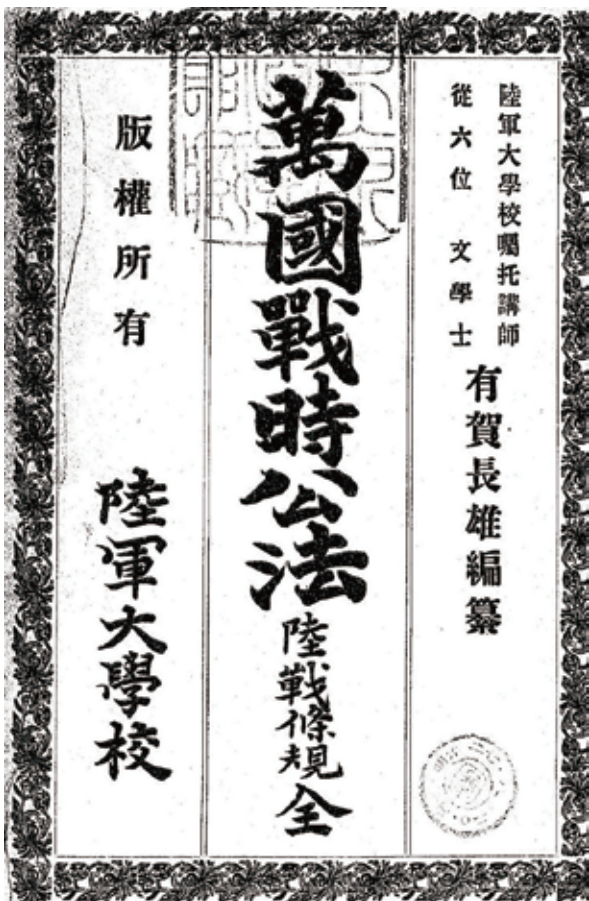


# 近代日本の捕虜政策と「板東俘虜収容所」

## ― 日清戦争から第一次世界大戦

1



第二次世界大戦における捕虜の処遇から、現在の欧米の共通理解では近代日本の捕虜政策は負のイメージで捉えられることが多くみられます。一方、第一次世界大戦時の日本の収容所では、捕虜たちが様々な活動を許され地域社会に貢献したことが知られています。

明治維新（1868年）から、日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦までの主に3つの戦争に焦点を当てながら、近代日本の捕虜政策と、その歴史のなかでみた「板東俘虜収容所」について取り上げます。

### 鳴門市ドイツ館 2階 企画展示室

〒779-0225 徳島県大麻町松字東山田 55-2



会期 令和6年2月3日（土）～3月31日（日）

（休館日：第4月曜日）

開館時間 午前9時30分～午後5時（入館4時30分）

入館料 大人400円 小・中学生100円／常設展と共通